

B-23 プレインカ染料の分析について
共立女子大家政 ○ 柏木 弁介 尾崎 三代

目的 ペルー國テワナユ(6-7世紀) およびチヤンカイ(13-14世紀)の染織数種について、その染料と顔料を分析し、繊維の性状についても色々実験を行なつて解明する。

方法 試料: アマノ博物館提供

実験方法: 従来植物色素の分析に実績のあつた各種クロマトグラフィのほか、新たにザルツマンの溶液スペクトルを用いた。顔料については質量分析(マススペクトル)、原子吸光およびプラズマスペクトルを用いた。繊維については電子顕微鏡による観察、アミノ酸組成の分析を行なつた。

結果 エキニール、藍などのほかにフラボノイド系らしい色素などを検出した。無機顔料についても数種ほど判明した。獸毛のアミノ酸組成とセルロースの分析などが明らかになつた。